

臨床研究に関する情報公開

「急性胆嚢炎に対する経皮経肝胆嚢ドレナージ後の至適手術時期の検討」へのご協力のお願い

当院の研究責任者

外科 田端正己

他の研究機関および各施設の研究責任者

なし

研究の対象

2016年1月～松阪中央総合病院で急性胆嚢炎に対する経皮経肝胆嚢ドレナージ後に胆嚢摘出術を受けられた方

研究目的・方法

急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン Tokyo Guidelines 2013 では、発症 72 時間以内の急性胆嚢炎では緊急または早期の腹腔鏡下胆嚢摘出術が推奨されています。一方、手術リスクが高く、安全に手術が遂行できないと考えられる場合には経皮経肝胆嚢ドレナージ(PTGBD)を行うべきとされていますが、PTGBD 後の至適手術時期に関しては、未だ一定の見解は得られていません。そこで、急性胆嚢炎に対して PTGBD 後に手術を施行した症例を、早期手術群(PTGBD 後 7 日以内)、待機手術群(PTGBD 後 8 日-28 日)、晩期手術群(29 日以降)とに分け、その手術成績(手術時間、術中出血量、開腹移行率、術後合併症発生率、術後在院日数など)を比較することによって、PTGBD 後の至適手術時期を明かにするのが本研究の目的です。

研究に用いる試料・情報の種類

検査所見やカルテ記載、病理組織所見等の診療情報

外部への試料・情報の提供

ありません

個人情報の取扱い

研究に使用する情報から個人を特定できるものは削除します。学会および論文発表において対象者を特定できる個人情報は一切使用しません。

研究資金源・利益相反

ありません

お問い合わせ先

0598-21-5252 田端正己